

第36回

うつのみやこども賞だより

令和元年度 6回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『しずかな魔女』

市川朔久子／著（岩崎書店）

『大渋滞』

いとうみく／著（PHP 研究所）



令和元年 1 1月 3日

うつのみやとしまかん
Utsunomiya city library

- 草子のために書いた本が本当の話だったところがよかった。深津さんがしずかなま女だったところがおどろきました。
- 野枝とひかりの関係と草子と深津さんの関係がどこかにていて、おもしろかった。
- 物語が図書館の人が書いていた、という設定はおもしろかった。ずっと物語の中に入れる。背景に主人公が不登校になっているという、現実でも有りうることだったので共感しやすい。
- 本当に楽しそうな野枝を想像して、私も楽しくなれました。共感しやすい設定で、読みやすかったです。草子が、自分の居場所と勇気をもらえて良かったです。
- あまり自信のなかった「のえ」は、「ひかり」と出会って勇気を出せるようになったのがよかった。



●他の本でこの作者を知っていたので、気になって読んでみました。麦が名古屋まで行く間、いろんなことを聞いたりして、成長していくところがいいなと思った。

●数々のハプニングの中で家族のきずながしゅう復されて、きずなも深まって良かった。

●表紙の絵がかわいいなと思いました。あらすじからもう「りこん」についてだったので、普通の本とはちがうな～と思いました。私も妹がいるので、主人公のきもちは感心しました。

●現実的な物語だった。家族のきずなが深まるというところが良かったです。

●家族の温かい物語だった。題名から連想して考えられることもあって、わくわくできた。

『月と珊瑚』 上條さなえ／著（講談社）

●沖縄に基地がある事や、しおんは、とてもりこう（頭がいい）けど戦うときの音にこわがっていたりなどと、人物構成が難しかった。

●「沖縄」という所に対する思いが、いい方へと変わった。伝統とは何か。家族とは何か。を改めて、よく考えさせてくれる本だと思った。

●沖縄というのはなれたところの過去を知り、戦争の話だけれどシリアスでもなかった。話が進むにつれてなぞがとけていき、とても分かりやすかった。

●話が進むスピードがちょうど良かったです。珊瑚と月の友情や、珊瑚の気持ちの変化に感動しました。

●沖縄がぶたいでおもしろかった。

『あららのはたけ』 村中李衣／著（偕成社）

●とても面白かった。手紙式の文がいいと思った。けんちゃんと会えてよかったと思った。植物や虫のすごさなどが分かった。

●文通で話を進めていく事におどろいた。農家の日常（えり）の方は、ほのぼのとしていて読みやすかったが、返事（えみ）の方はちょっと重たかった。でもバランスがよくて面白かった。

●えりちゃんとエミちゃんの手紙を読むだけで物語になっているのが面白いと思いました。

●読んでいて、自分が本に出てくる登場人物になっているみたいで、おもしろかった。

●2人の友情がよく感じられた。手紙でつながっている2人は素敵だなと思った。